北海道の印刷出版文化情報誌

季刊アイワード
Quarterly WORD
クォータリーアイワード

2021年7月
第10号（通巻356号）

THIS IS MECENAT 2021

特集

再び被爆者をつくらない―、広島・長崎の悲惨な歴史を北海道で語り継ぐ

一般社団法人 北海道被爆者協会

シリーズ「北海道の天然記念物」❷ ……「天売島海鳥繁殖地」と「焼尻の自然林」〔羽幌町〕

ほっかいどうの本 ……『タマゴマンは中学生 愛蔵版』……北海道新聞社
『北大キャンパスガイド』……北海道大学出版会
『猫（ボク）はここにいるよ』……共同文化社

特集

再び被爆者をつくらない―、広島・長崎の悲惨な歴史を北海道で語り継ぐ

一般社団法人 北海道被爆者協会

1945年8月6日午前8時15分、人類史上初の核攻撃となるウラン型原子爆弾が広島に落とされました。その3日後の9日午前11時2分、今度はプルトニウム型原子爆弾が長崎に投下されました。原爆は閃光とともに炸裂し、強烈な熱線と爆風、放射線が街を襲い、一瞬で多くの命を奪いました。爆発後、晴天であった空に大きなきのこ雲が発生し、放射性物質を多量に含んだ「黒い雨」を降らせ、飲み水や田畑、人々を汚染し壊滅的な被害をもたらしました。

かろうじて生き残った被爆者も、ひどい火傷や原爆症で普通の暮らしができず、結婚や就職などで差別を受けるといった苦しい思いを抱えてきました。北海道被爆者協会（廣田凱則会長代行）の「語り部（かたりべ）」は、地獄のような光景を目の当たりにした歴史の証言者です。被爆者を二度と出さないよう、自らの体験を語り、核兵器の廃絶を訴えています。協会の運営に携わる方々に会の歩みや活動状況を伺いました。（文と写真・片山健一　取材日2021年6月11日、23日）

JR平和駅連絡通路（左）と北海道ノーモア・ヒバクシャ会館（右）

平和の館・ノーモア・ヒバクシャ会館

札幌市白石区平和通、JR平和駅連絡口の目の前に、広島の原爆ドームを模した半球状の骨組みを屋上に載せた「北海道ノーモア・ヒバクシャ会館」があります。

家族や医師にも打ち明けにくい悩みを持つ被爆者が、「気兼ねなく話せる、憩いの家がほしい」という切実な声を受けて、1982年に会館建設委員会が発足し、募金運動が始まり10年後には4500万円を超える寄付が集まりました。1991年末に延べ床面積約260平方メートルの3階建て会館が完成し、今年で30周年を迎えます。

1階の北海道被爆者協会事務室には、被爆者会員や事務局員が常駐し、日常的な相談業務に対応しているほか、事務局会議が定期的に開かれています。

2階の「広島・長崎原爆資料展示館」は、熱線で溶けて変形した瓦や湯のみ、被爆者の体内から出てきたガラス片など約100点を陳列し、被爆直後の街や人々の写真パネルなども展示する国内最初の民間展示施設です。3階の研修室では、被爆体験の語り伝え、平和学習の場として、市内の小中学生のほか、青年、

毎月1回開いている事務局会議の様子

学生、市民団体の人々も訪れています。完成間もない1992年度には年間入館者数2801人を記録しました。昨今は1100人程度の来館者ですが、この30年間で3万5000人余りの入館者を迎えてきました。

協会発足の歩みと果たしてきた役割

1954年、ビキニ環礁で行った米国の水爆実験で日本の漁船が被曝して死者が出たことを契機に、日本の原水爆禁止運動に火が着きました。1955年、第1回の原水爆禁止世界大会が広島で開催され、1956年に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が長崎で結成されました。同じ時期から原水爆反対の集会が札幌など道内各地でも開かれ、1960年6月に北海道原爆被害者団体協議会（北海道被団協）が会員32人で発足しました。

被爆から10年、被爆者を救済する国の施策は皆無で、〝見捨てられた10年〟と言われます。その間に多くの被爆者が亡くなっていきました。

日本被団協は「国家補償の被爆者援護法」の制定を要求の柱に掲げました。

1957年4月1日、「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律」（原爆医療法）が制定され、はじめて被爆者健康手帳が交付され、認定疾病に対する医療の給付、年2回の無料健康診断などが実現しました。その後、1968年の被爆者特別措置法、1995年制定の現行被爆者援護法へと、被団協は被爆者の医療・福祉の増進に大きな役割を果たしてきました。

北海道被爆者協会事務局の皆さん

前列左から　長井文雄さん、金子廣子さん、宮本須美子さん、廣田凱則さん
後列左から　鳴海典子さん、大村一夫さん、平真知子さん

北海道被団協は全道の被爆者の中心となって援護策の充実を国に求めるとともに、再び私たちのような被爆者をつくらないで、核兵器の廃絶を、と運動してきました。また、諸団体と一緒に、1965年から毎年8月6日には原爆死没者追悼会を開催しています。

1987年、北海道被団協は、会館運営に向けて社団法人に移行し、1990年には現在の北海道被爆者協会に呼称を変更しました。

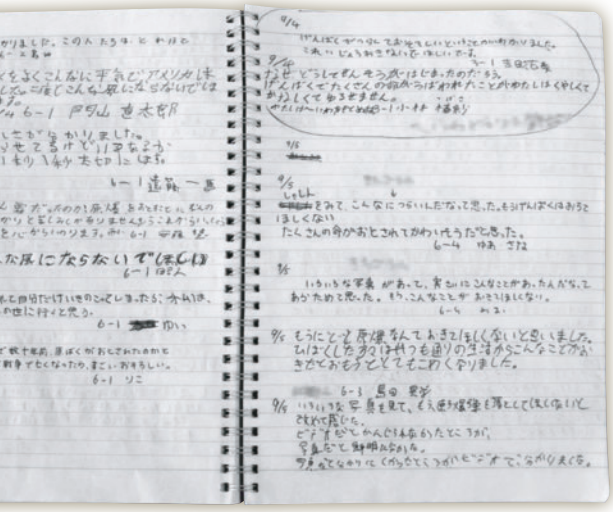
ピーク時には100人を超える被爆者会員がいましたが、被爆者の高齢化とともに、現在の会員は被爆者46人、それ以外の会員が20人です。このほか100人を超える賛助会員が会の運営と財政を支えています。

会館2階の広島・長崎原爆資料展示館

被爆者による語り部活動に力を入れる

北海道被爆者協会では、被爆者が自らの体験を語る「語り部（証言）」活動に力を入れています。体験談を収録した『被爆者の証言』は、これまでに4冊発行しました。また、会館では当番の被爆者から、直接証言を聴くことができるほか、被爆者の代表的な証言動画はDVDやインターネット動画共有サービスYouTubeでも視聴することができます。語り部が札幌市内の小中学校に出向いて戦争・被爆体験を伝える平和学習は今年度、25校にまで増えました。

会の発足時からのメンバーの一人、松本郁子さんは、広島生まれで、12歳の時に自宅で被爆しました。「白く



見学者が感想を綴ってきたノート

道内在住の被爆者の体験談を集めた「被爆者の証言」全４巻

鋭い光でした。気が付くと、部屋の隅で目と耳を押さえ、小さくしゃがみ込んでいました。口の中はジャリジャリして、息をすることもできませんでした」と回想します。ほとんど無傷で助かりましたが、放射線を多量に浴びたことによる極度の貧血や倦怠感が長く続いたそうです。

松本さんは移り住んだ北海道にも、被爆者の会が発足するという知らせを受け、出席します。しかし「その頃は人様に私の体験を伝えたくありませんでした」と述懐します。それは、二人の子どもに被爆二世としての不安を感じさせたくない一心で、「原爆には遭ったけれど、安全な所にいたから心配ないのよ」と説明していたためです。しかし、「被爆から60年を過ぎて子どもたちも事情を理解します。私はそこで語り部となる決心をします。海外で語った時の反応、高校や中学校に講師として招かれた時の感動は忘れられません」と言います。

大村一夫さんは、語り部になることを自ら希望して２０１７年に入会しました。きっかけは２０１４年、修学旅行で長崎を訪れた中学３年の生徒数人が、案内していた被爆者に対して「死に損ない」などの暴言を吐いたという新聞記事を読んだことでした。大村さんは「70年前の出来事を涙ながらに語り、被爆直後の残酷な写真や映像を見せても、今の中学生には響かない」と思ったそうです。「それよりも『今一番恐いのは、アメリカやロシアが持っている強力な水爆じゃなくて、広島型よりもっと小型の原爆をテロリストや管理能力のない政府が持った時だ。あなたたちの未来に関わる問題だよ』と伝えると、ものすごく興味を持つ」そうです。その後、助かった後も死の恐怖から逃れられない被爆者の内面の動揺を体験として語るのです。

道庁での原爆展（2016年）で体験談を語る
（写真提供：北海道被爆者協会）

他方、「私はしゃべるのが苦手なものだから、語り部はやらないです」という長井文雄さんは事務局長として裏方に徹しています。10歳の時に広島で被爆しましたが、「自分が体験したことなのか、後で聞いた話なのか記憶が入り交じっている」と言います。ただ、原爆で妹を亡くした悲しみ、助けることができなかった悔しさは忘れられず、「車の運転、会館の修理など何でもいい、協会のお手伝いをしていきたい」と話します。

高齢化する被爆者　未来へと受け継ぐ「被爆二世プラスの会」

広島市では約35万人、長崎市では約24万5000人が被爆したと言われています。遠く離れた北海道にも、多い時には1000～2000人の被爆者が住んでいたと言われていますが、差別の問題などもあり、公にしない被爆者もいて正確な人数は分かりません。

２０２０年３月末現在、道内で被爆者健康手帳を持っている人数は２４８人と、近年急速に減ってきています。30年にわたって会長職を務め、協会の活動をリードしてきた越智晴子前会長も２０１５年12月に亡くなりました。

高齢になった被爆者の活動を支える
北明邦雄事務局次長

越智さんに誘われ、二十数年前に協会に加入した宮本須美子さんは「入った頃は語り部もたくさんいて、60代だった私は若い方でした。でも今は数えるほどです。私たちが話さないと、伝わっていかないという思いで続けています」と言います。

被爆者の減少とともに、協会会員数の先細りは確実な情勢ですが、被爆者ではない立場で被爆者の活動を支える北明邦雄事務局次長は「被爆者が頑張ってくれたおかげで、核兵器が使われないでここまで来ました。私たちも被爆者が背負ってきた課題を自分たちのものとして引き継いでいく必要があります」と語ります。

原爆の悲惨さや平和の尊さを次世代に継承する取り組みは大きな転機を迎えています。担い手は、被爆第一世代から第二世代へと移り、さらに被爆者のいなくなる時代を迎えよ

うとしています。そうした中、2017年に「被爆二世プラスの会北海道」が発足しました。被爆二世に限らず、広く門戸を開き、現会員は約50人です。

高齢化した被爆者が、被爆体験や核廃絶への思いを直接伝えることができなくなる前に証言を聞き取る「じっくり聞こう被爆体験」や父母から聞いた被爆体験を二世が語り継ぐ「二世が語る夏」などを実践しています。

北海道被爆者協会が2017年に実施した調査によると、道内の被爆二世の約3分の1は、親が被爆していることに伴う健康への不安を抱えています。被爆二世は、年一回、無料で健診を受けることができますが、この制度を知る被爆二世は半数

平和学習として小学校で被爆体験を伝える
（写真提供：北海道被爆者協会）

とも言われています。こうした制度の周知活動にも取り組んでいます。

脱原発と核兵器廃絶への願い

2011年3月11日の東日本大震災に伴い発生した福島第一原子力発電所事故は、被爆者たちに大きな衝撃を与えました。

5歳の時に広島で被爆した金子廣子さんは、北海道に来てから被爆者だと明かすと、「うつる。そばに寄るな」と言われた経験があり、それ以来秘密にしてきました。長年体調不良を抱えていましたが、越智前会長に紹介された病院でようやく、病名が分かり、薬を出してもらえました。「いつか恩返しがしたい」と思いながらも、過去のトラウマもあり、被爆者としての活動に尻込みをしていたそうです。

転機は、福島の原発事故の後、小さな子どもにも甲状腺機能の低下が見られるという報道でした。「これは昔の自分だ」と思い、語り部を引き受ける決意を固めました。

原爆症とみられる病で父を亡くし、母子家庭の生活苦で高校に通えなかった金子さんは、68歳から3年間、夜間中学に通い学び直しました。次は高校にと思った矢先、頸椎の手術を受けることになり、再び高校進学を断念しました。「私の人生は爆弾一つで変わってしまいました。特に高校に行けなかったのは心残りです」と言います。語り部になって「当たり前に学校へ通えることが、幸せなんだよ」と子どもたちに語りかけます。

2014年から協会の活動に参加し今年会長代行になった廣田凱則さんは、7歳の時に長崎で被爆し、小学6年生の時には父の転勤で広島に行き、2つの被爆地で過ごしました。「一番やっかいなのは、放射線を浴びた影響です」と指摘します。原発事故の影響を心配しつつ、「人間はいろんな物を作りながら、自らを滅ぼそうとしているようなものです」と静かに憤りを表します。

原爆投下から75年となった2020年、北海道被爆者協会は会館に展示しているマリア像を題材に、被爆者の思いや会館設立の歩みを描いた絵本『北の里から平和の祈り　ノーモア・ヒバクシャ会館物語』を北海道新聞社から発刊しました。長崎で被爆し両親を失った7歳の主人公「まり子」が、小さなマリア像を抱いて祖母と共に札幌へと移り住み、四十数年後、心の拠り所にしていたその像を、札幌に完成した平和の館・北海道ノーモア・ヒバクシャ会館に寄贈するという物語です。

2021年1月、国連の核兵器禁止条約が発効しました。しかし、唯一の被爆国である日本は条約に署名も批准もしていません。「まり子」と同じ7歳の時、長崎で被爆した宮本さんは「原爆禁止、核兵器廃絶をずっと訴えてきて、ようやく禁止条約までたどり着いたのですから、国を説得し、姿勢を変えていかなければ」と祈るように話していました。

終戦75年に北海道新聞社より発刊した絵本

絵本の題材となった土製のマリア像

お問い合わせ先　一般社団法人 北海道被爆者協会
札幌市白石区平和通17丁目北6－7
011－866－9545

北海道の天然記念物②

「天売島海鳥繁殖地」と「焼尻の自然林」〔羽幌町〕

（文・片山健一　取材日2021年6月1日）

小さな離島に残る貴重な自然
海鳥や樹木を守りながら暮らす島民

羽幌町の沖合に浮かぶ天売島と焼尻島は、どちらも周囲12キロメートルの小さな離島です。同じ羽幌町内で数キロメートルしか離れていない両島ですが、それぞれに異なる国指定の天然記念物があります。

天売島は大規模な海鳥の繁殖地があり、焼尻島では独特の自然林が育まれています。両島合わせ500人弱の住民たちは、島の宝を大切に守り共生の道を歩んでいます。

地面の穴は全てウトウの巣〔天売島〕

「海鳥の楽園」保護に取り組む天売島

断崖絶壁が連続する天売島西側の海岸は、オロロン鳥（ウミガラス）、ウミスズメ、ウトウ、ヒメウなど8種類約100万羽の海鳥たちが、春から夏にかけての繁殖期を過ごす世界有数の「海鳥の島」です。

約74万羽が営巣するウトウの繁殖地としては世界最大規模です。環境省の絶滅危惧種に指定されているオロロン鳥やヒメウ、ウミスズメの国内唯一の繁殖地でもあり、1938年に国の天然記念物「天売島海鳥繁殖地」に指定されました。

巣に魚を持ち帰るウトウ［天売島］

羽幌町のシンボル的存在のオロロン鳥は、1960年代には約8000羽が棲息していましたが、卵やひなを狙うカラスやカモメといった天敵の増加、流し網漁での混獲などで激減しました。地元では集団営巣する崖のくぼみにデコイを置き、スピーカーで鳴き声を流しオロロン鳥を呼び寄せ、天敵の駆除を進めたことで、2002年に13羽にまで落ち込んだ飛来数は、2020年は65羽に回復しました。今年5月には91羽の飛来が確認されています。

ペンギンのような姿をしたオロロン鳥（ウミガラス）〔天売島〕

「オンコの森」が密集する焼尻島

焼尻島は、中央部からほぼ東半分に約75ヘクタールの自然林が広がり、春にはカタクリやエゾエンゴサク、夏にはエゾカンゾウなどの花が咲き誇ります。

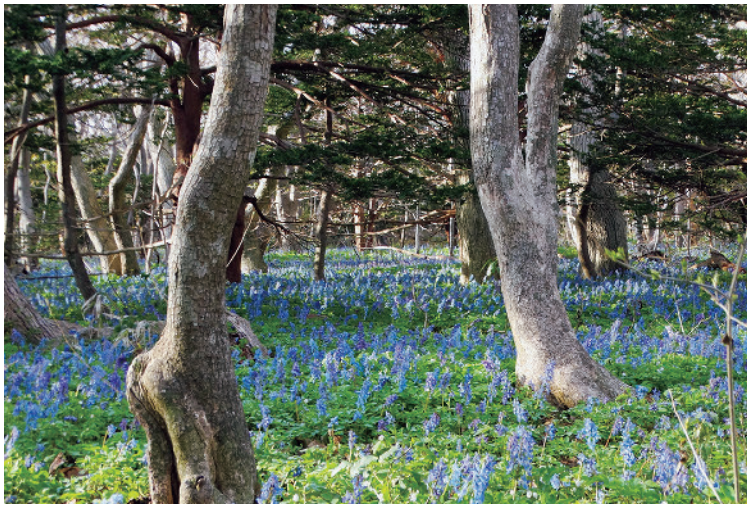
1983年、国の天然記念物に指定された「焼尻の自然林」は、北海道で「オンコ」と呼ばれるイチイが群生しています。ミズナラ、アカエゾマツなどの上層林の下にオンコが第二層となって育ち、特異な二段林を形成しています。

オンコの荘で枝を広げるイチイ（オンコ）〔焼尻島〕

また、上層林のない「オンコの荘」という一帯は、通常は高さ15メートルほどに生長するオンコが、上へ伸びず、地を這うように枝が広がっています。奇妙な形に生長する理由は、強い西からの季節風が吹き付ける風衝地であることや雪の重みによると言われています。

焼尻島では1786年ごろからニシン漁が始まり、ニシン〆粕製造の燃料などに多くの大木は切られましたが、生活用水を確保するため、オンコだけは残したと言われています。一方、定住者のいなかった天売島では森林伐採が進みました。現在、焼尻島は森林面積の6割が天然林なのに対し、天売島にある森林の9割が人工林です。焼尻島では自然林内への車両乗り入れを規制し環境を保全しています。

（写真提供：羽幌町観光協会）


エゾエンゴサクが咲く春の焼尻島の自然林

羽幌町

羽幌は、アイヌ語の「ハポロベツ」が語源といわれ「広大な川の流れる地」の意を含んでいるといわれています。まちの花は「つつじ」、まちの木は「オンコ」です。

ほっかいどうの本

北海道の出版社から発行された本を紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

タマゴマンは中学生 愛蔵版

978-4-86721-015-4
坂本 勤 著
北海道新聞社 発行
A5変型判 528頁 2750円
011・210・5744

北海道上川町に生まれ十勝の幕別中学校をふりだしに、札幌市内の中学校で国語教師として勤務した著者による、豊かな生徒との関わりや経験を基に描いた「タマゴマンは中学生」シリーズです。

本書は2002年から04年に刊行された「入学編」「自立編」「卒業編」の3年間を一冊にまとめた愛蔵版です。

たまごのような丸い体に顔と手足がついた中学生「タマゴマン」を中心に、「ダンゴマン」「アナゴマン」の友人達と様々な体験をしながら悩み考え成長していく姿が、愛らしいイラストと共に丁寧に表現されています。

子どもから大人へと脱皮していく多感な時期を、大人の考えや答えを押し付けることなく、見守り導く先生の優しい眼差しは、いつも生徒への信頼と深い愛情に包まれています。

描かれている子どもと一緒に一喜一憂する親の姿に共感を覚えます。かつて誰もが経験したことのある思春期の思い出がよみがえる、優しく心に残る一冊となっています。

（経理部 渡辺真弓）

北大キャンパスガイド

978-4-8329-1410-0
北海道大学CoSTEP・北海道大学総務企画部広報課・北海道大学生活協同組合 編
北海道大学出版会 発行
四六判 136頁 1980円
011・747・2308

「キャンパス内で牛や羊を見ることができる」そんな北海道ならではの光景が広がる大学が札幌にあります。1876年設立の札幌農学校を前身とする北海道大学です。

本書は北大を訪ねる全ての方に向けて編まれており、クラーク像やポプラ並木といった観光の定番スポットから、竪穴式住居跡が残る遺跡保存庭園や日本三大寮歌の一つ「都ぞ弥生」の歌碑などが紹介されています。観光客をはじめ、現役北大生、卒業生・修了生、教職員までもが楽しめます。

また、キャンパス内で見られる花や鳥も紹介されており、市内中心部にいながら自然を身近に楽しむことができるのも北海道大学の大きな特長です。広大なキャンパスは学生のためだけではなく、市民や観光客の憩いの場としても親しまれています。

カラッとした夏の青空に眩しい万緑の木々、黄金色のイチョウ並木、白銀の雪景色など四季折々で異なる表情を見せるキャンパス。北海道大学の魅力が満載のガイドブックです。

（北海道営業部 相知拓海）

猫（ボク）はここにいるよ

978-4-87739-346-5
新倉 ヨシコ 著
194ミリ×170ミリ 60頁 990円
共同文化社 発行
011・251・8078

野山と田畑に囲まれた古い民家に、ある日、幼い捨て猫がたどり着きました。そこには老夫婦が住んでおり、一緒に暮らすことになりました。本書は、5年前に著者のもとへやってきた猫との日常を、猫（ボク）の視点で書き綴った物語です。

二人のもとで自由奔放に暮らす猫の、のどかで、ときにはちょっとワイルドで、都会の猫とは一味違うエピソードの数々。「ボクは～」と一人称で語られ、まるで子どもの日記を読んでいるような感覚になります。お話に引き込まれていくと、徐々に小さな生命の力強さ、その存在の尊さに気づき、「猫（ボク）はここにいるよ」というタイトルに相応しい穏やかな感動を覚えます。

後半にはボクを産んでくれたお母さんと前のご主人様への手紙、ボクの母ちゃんが詠んでくれた短歌が掲載され温かさ溢れる一冊となっています。

凛とした猫の表情と緑が広がる背景の表紙や、墨で描いた本文中の装画は、若きアイワードスタッフが描き起こしたオリジナルです。

（トレス部 二川原考洋）

新刊情報

書名の下の数字は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

北海道キャンプ場&コテージガイド2021－22
花岡　俊吾　著
978-4-86721-022-2
A5変型判　296頁　1980円

十七音の旅　余市、北海道、日本
櫂　未知子　著
978-4-86721-021-5
四六判　192頁　1650円

決定版　北海道　道の駅ガイド　2021－22
花岡　俊吾　著
978-4-86721-023-9
A5変型判　272頁　1760円

北海道夏山ガイド②　表大雪の山々　最新第2版
梅沢　俊・菅原　靖彦・長谷川　哲　著
978-4-86721-024-6
B6判　272頁　2530円

函館山　花しるべ
藤島　斉　著
978-4-86721-026-0
B6判　176頁　1430円

よるがとんでゆく
ちさ　絵・浮川　千裕　文
978-4-86721-025-3
熊八木　B5判　32頁　990円

やかんひこう
やまだ　なおと　文・絵
978-4-86721-028-4
B5判　32頁　990円

北海道新聞が伝える　核のごみ　考えるヒント
関口　裕士　著・北海道新聞社　編
978-4-86721-029-1
B5判　64頁　1100円

モーリー57号　知られざる小さな命の営み
北海道に棲む小動物
北海道新聞野生生物基金　編
978-4-86721-030-7
A4判　72頁　1100円

Wild Hokkaidō
A Guidebook to the National Parks and other Wild Places of Eastern Hokkaidō
マーク・ブラジル　著・北海道新聞Hot Media　発行
978-4-86721-027-7
A5判　180頁　2970円

脳活パズル&クイズ　北海道179
石田　竹久　著
978-4-86721-030-7
B6判　240頁　1320円

道新プラス　道新受験情報　2022大学・短大特集
北海道新聞社　編
16747-05
B5判　290頁　880円

―**北海道新聞社**
060-8711 札幌市中央区大通西3-6
☎011・210・5744

コンテンツツーリズム
メディアを横断するコンテンツと越境するファンダム
山村　高淑、フィリップ・シートン　編著・監訳
978-4-8329-6867-7
A5判　410頁　4180円

ソール・アリンスキーとデモクラシーの挑戦
20世紀アメリカにおけるコミュニティ組織化運動の政治史
石神　圭子　著
978-4-8329-6854-7
A5判　328頁　6600円

17世紀フランスの絵画理論と絵画談義
語らいと沈黙の美術批評史
今村　信隆　著
978-4-8329-6869-1
A5判　318頁　6820円

再　くりかえす世界
北大文学研究院ライブラリ　18
橋本　雄　編
978-4-8329-3411-5
四六判　306頁　3080円

万葉集羈旅歌論
楡文叢書　3
関谷　由一　著
978-4-8329-6872-1
A5判　334頁　7700円

山地のポスト・トライバルアート
北大アイヌ・先住民研究センター叢書　4
台湾原住民セデックと技術復興の民族誌
田本　はる菜　著
978-4-8329-6868-4
A5判　332頁　7480円

居宅介護と変容する家族像をさぐる
「ホームホスピス」への取り組みを手がかりとして
関　孝敏・松浦　尊麿・藤田　益伸　編著
978-4-8329-6873-8
A5判　280頁　3740円

言語　この希望に満ちたもの
TAVnet時代を生きる
野間　秀樹　著
978-4-8329-3413-9
四六判　352頁　2970円

―**北海道大学出版会**
060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
☎011・747・2308

介護員詩誌　誰も知らない話
北岡　けんいち　著
978-4-89115-394-6
四六判　276頁　1100円

書の宙(そら)へ
佐藤庫之介書論集刊行委員会　編・発行
佐藤庫之介書論集刊行委員会
978-4-89115-395-3
A5判　435頁　4180円

アートと、そのあわいで
北村清彦教授北大退職記念論集
北海道大学芸術学研究室　編
978-4-89115-396-0
A5判　421頁　5500円

―**中西出版**
007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
☎011・785・0737

北海道酪農の150年の歩みと将来展望
―酪農技術の発展と酪農哲学の再考―
干場　信司　監修・北海道酪農の歩みと将来展望を考える会　編集
978-4-86453-077-4
B5判　250頁　2200円

スマート酪農機器導入ガイド
期待できる効果と未来の姿
池口　厚男　監修
978-4-86453-078-1
A4判　128頁　2530円

―**デーリィマン社**
060-0005 札幌市中央区北5条西14丁目
☎011・231・5261

GAPに学ぶ片付け術
ニューカントリー編集部　編
978-4-86453-079-8
B5判　124頁　1466円

―**北海道協同組合通信社**
060-0005 札幌市中央区北5条西14丁目
☎011・231・5261

十勝開拓史　年表
加藤　公夫　編
978-4-8328-2101-9
A5判　750頁　6930円

松浦武四郎　近世蝦夷人物誌
髙木　崇世芝　編著
978-4-8328-2103-3
A5判　318頁　3960円

―**北海道出版企画センター**
001-0018 札幌市北区北18条西6丁目2-47
☎011・737・1755

ふまねっと運動のすすめ
認知機能を改善する高齢化地域の健康づくり
北澤　一利　著
978-4-909281-35-7
A5判　204頁　2200円

―**寿郎社**
060-0807 札幌市北区北7条西2丁目
☎011・708・8565

うんちエイジング
便秘治療のウソホント
高野　正太　著
978-4-434-28848-7
四六判　184頁　1430円

―**柏艪舎**
060-0002 札幌市中央区北2条西3丁目
☎011・219・1211

整形外科医　川村五郎の軌跡
岩内・習志野・盛岡・札幌・富良野
かわむら整形外科開院50周年記念出版委員会　編著
978-4-600-00578-8
A5判　160頁　1760円

―**オルファン**
063-0802 札幌市西区二十四軒2条5丁目4-1
☎011・676・3537

爪句@天空の花と鳥
北海道豆本シリーズ47
青木　曲直　著
978-4-87739-352-6
100ミリ×74ミリ　232頁　500円

自治体の行政執行と法治主義
秦　博美　著
978-4-87739-353-3
A5判　484頁　3300円

おいしく　つくろうよ
東海林　明子　著
978-4-87739-354-0
A4変型判　84頁　1430円

―**共同文化社**
060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目
☎011・251・8078

団体出版

熊から造形へ
木彫り熊　未知なるコトで　独り言
山里　稔　編・熊学舎　発行
AB判　112頁　3300円
Eメール　kumagakusya@gmail.com

天災地変人禍に抗して
―北海道の災害と文学―
（公財）北海道文学館　編
A5判　184頁　1600円
☎011・511・7655

表紙のことば

るもい港
佐藤　一
木版画　48センチ×70センチ

上川・空知地方の流通拠点となっている港湾である。7月の湾内は穏やかで、小さな防波堤と赤い浮き、絡めたロープが何とも言えない雰囲気を出している。また、対岸に見えるセメント工場群がこれらと絶妙に調和しており、雄大でホッとさせられる風景である。

全道美術協会（全道展）会友　札幌市在住

※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL https://iword.co.jp

Quarterly IWORD
北海道の印刷出版文化情報誌［季刊アイワード］第10号（通巻356号）　2021年7月15日発行　編集■季刊アイワード編集委員会　発行■株式会社アイワード　〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5番地91　☎011・241・9341